

7月

# 同和問題啓発強調月間です。

差別のない

明るい社会を築くために

**同** 和問題は、日本社会の歴史的過程で形づくられた身分差別により、国民の一部の人々が、長い間、生活のさまざまな場面で差別を受けてきた問題で、今もなお、現代社会に残るわが国固有の人権問題です。

**日** 本国憲法では「すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない」（第14条）と法の下での平等をうたっています。また、国や地方公共団体では、この問題の解決を図るため、教育・啓発・地域改善対策などを行ってきました。

**し** かしながら、同和問題をはじめとするさまざまな人権問題の発生は依然として後を絶ちません。

さらには、高度情報化社会の進展に伴い、インターネットを悪用して個人の名誉やプライバシーが侵害されることや、差別を助長する表現や有害な情報が掲載されるなど、人権問題もますます多様化、複雑化してきています。

**人** 権が尊重される社会づくりを目指し、同和問題をはじめとするさまざまな差別を解決するためには、「無関心」「無理解」であつてはなりません。人権問題についての認識を深め、「お互いの個性を認める」豊かな心を持ち、一人ひとりが自分自身の問題として考え、真剣に取り組んでいくことが大切です。

**直** 方市では、一人ひとりの人権が尊重され、誰もが幸せに、そして人間らしく生きられる社会を実現するための取り組みを行っています。

## 人権問題に関するDVDなどの視聴覚教材の貸し出し



市民・人権同和対策課では、無料で人権問題に関するDVDなどの視聴覚教材の貸し出しをしています。グループやご家庭での学習に活用し、人権感覚を高めましょう。

申し込み・問い合わせ 市民・人権同和対策課 (TEL 25 - 2105)

## 人権標語と作文

市内の小・中学校の児童・生徒から、人権についての標語と作文を募集しました。今年は、標語75点、作文13点の応募の中から次のとおり入選作が決められました。児童・生徒が自分自身の心にある「人権」についてありのまま表現したものです。これらの標語は、市内の小・中学校と公共の施設、合わせて25ヶ所に啓発標語看板として、7月から2ヶ月間掲示します。

### 令和三年度 人権標語

みんながね

それぞれ持っている 人の個性

直方一中3年

中野雄仁

「やめようよ」

そのひと言が 助け舟

下境小6年

伊藤咲斗

あふれてる

みんなのいいところ あふれてる

植木小6年

有田湊

誰でもね

勇気があれば 誰かのヒーロー

直方三中3年

中島小町

同じだよ

見ている人も いじめている

直方西小6年

宮本匠

人権は  
みんながもってる 宝物  
直方北小6年 永淵叶大

いじめのない  
未来を開け 自分の手  
新入小5年 水上ゆり

人権を  
守って笑顔 差別ゼロ  
感田小6年 田淵亜紀

いじめだめ  
心のきずは ならぬ  
中泉小6年 藤嶋あかり

ありがとう  
一つの言葉で 広がる笑顔  
直方南小6年 徳永麻彩

「差別しない」  
忘れてませんか その気持ち  
上頓野小5年 鐘江璃乃

「ありがとう」  
その一言で 心も笑顔  
福地小6年 藤井創志

いじめはね  
「やめる」じゃなくて「はじめない」  
直方二中2年 高橋結衣

捨てよう言葉のナイフ  
集めよう言葉の宝石  
直方東小6年 川畑柚葉

「大丈夫」  
返事をしたけど 本当は  
植木中1年 田中美香

ありがとう  
ただそれだけで 誰かは幸せ  
下境小5年 大友光雲

コロナ禍で  
離れていても 心は近く  
直方三中1年 稲波良誠

いらぬ心よ  
心と心の ディスタンス  
直方北小6年 旭由珠

人のこと  
くらべるよりも 学ぼうよ  
上頓野小5年 黒木海怜

ありがとう  
ひとつつながる あいことば  
上頓野小5年 玉井胡春

認めあう  
みんなの個性 大切に  
直方二中1年 田代愛輝

だれひとり  
かわりはないよ だいじな命  
直方二中2年 山口愛美

おもいやり  
まずは自分を 大切に  
直方二中2年 村井陸太郎

全員が  
だれかにとつての たからもの  
直方二中3年 梶原彩花

認めよう  
みんなの色を 差別せず  
直方二中3年 岩村希優

### 権文 人作

#### 「人権」は難しい

植木中学校 三年 小田 麗音

「人権」は考えると、難しい。自分は守れていると思っても、守れていないことの方が多いからだ。

自分が何気なく発した言葉、それは正しかっただろうか。今の行動は正しかっただろうか。そう考えることがよくあった。自分が気をつけていても体から飛び出してしまう無意識のもの。それは知らず知らずのうちに友人を傷つけてしまうものだったかもしれない。そう考えると自分が怖くなった。

それから私は、人前であまり意見が言えなくなった。他人を傷つけないように、慎重に慎重に。私は自分の意見を言えなくてもいいと思っていた。私が言った言葉で人が傷つき、その人との関係が壊れることの方がよっぽど怖いと思っていたから。そう、私が臆病だったのだ。一度の失敗でもやり直せばいい。何回でもチャンスはあるはずなのに。でも、当時の私はそのことに気づけなかった。

しかし、そんな私に転機があった。一人の友人が、「それでいいの。周りに合わせられることは素敵だけど、自分の人権守れてないじゃない。」と言ってくれたのだ。この言葉が胸にすんと落ちた。そうか、私は自分の人権を守れていなかったのかと。

私は、友人や家族の人権を守ることはとても大切なことだと思っっている。しかし、それ以上に自分の人権を守ることも大切だと思っっている。まず、自分の声に耳を傾けて、余裕があったら他の人にも傾けて。そうやって笑顔の輪を広げていけたら良いと思う。「人権」は難しい。自分の人権もわからなくなるくらい。でも、こうやって学んで、いつか立派な大人になれるように毎日を楽しく努力していきたい。